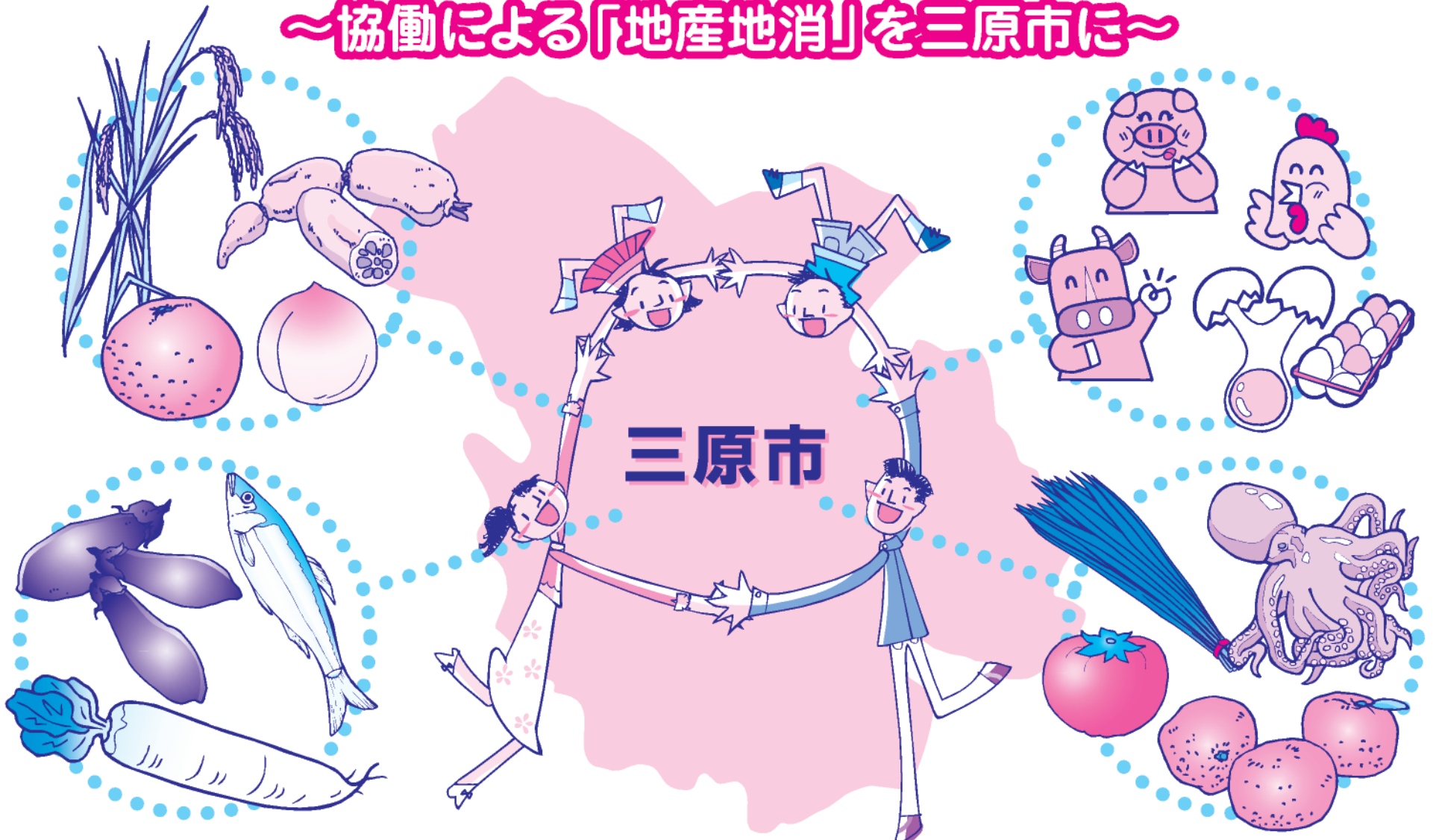




# 地産地消で明るい豊かなまちづくり!

## ～協働による「地産地消」を三原市に～



三原市

### はじめに

これまで(社)三原青年会議所は、これからのまちづくりは行政や市民がそれぞれ単独で行うのではなく、市民、企業、行政が協働で行う必要があると考え、様々な活動を行ってまいりました。本年度、地域の力確立委員会は、新たな視点として「地産地消」を通して協働のまちづくりを行っている地域を調査研究し、協働によるまちづくり実現を目指します。

### 三原市における「地産地消」の現状

多くの自治体が「地産地消」を実現させるため様々な施策を行っていますが、我々のまち三原市も農林水産業の振興の一つの方法として「地産地消」の推進をしており、平成17年に新市として合併するための協議会が作成した「新市建設計画」の中にも「地産地消」の推進について記載されています。

また、市内の様々な農林水産の団体も「地産地消」の実現のため、いろいろな検討をされています。

### 協働で「地産地消」を行うには

先ほどの「新市建設計画」にも記載されていますが、6次産業化の促進を活用することも一つの方法です。6次産業とは、農業や水産業などの第1次産業が食品加工(第2次産業)・流通販売(第3次産業)にも業務展開している経営形態を表しており、東京大学名誉教授の今村奈良臣氏が提唱した造語です。

農業や水産業の方が、食品加工や流通販売を行ってゆくためには、その産業に関わる企業の協力は欠かせません、また行政や市民の援助も無ければ実現は難しいでしょう。このことから6次産業で「地産地消」を行うことが協働につながってゆくと考えられます。

**1次産業×2次産業×3次産業=6次産業**

2面へ続く➡

◆「目の前に壁が現れた時、乗り越えず避けて通るのも一つの方法です」様々な立場の方から贈られる言葉として聞かれた人もおられると思います。が本当にそうなのでしようか◆ある話を例にあげます。両親と子ども三人家族がサファリーパークでバスに乗って移動中、突然ライオンが勢いよくその家族が座っている場所の窓に飛びかかりました。両親は驚き顔色をかえ子どもを抱きかかえました、しかしなぜか子どもは顔色一つかえず笑顔を見せています。何故なら子どもは母親の膝の上に座っており母親が窓まで届かずライオンに気付く事ができなかったからです◆この事は私達の生活・仕事に対しても同様の事が言えるのだと思います。様々な問題に悩んでいる人は多いと思います、しかしその問題に気付いている時点で問題に答えを出し対応する事ができるのです。逆にいうと自分の力で解決出来ない問題には気付く事すらできないのです◆問題に気付いた時点でそれは皆さんが成長した事を意味します。問題が起きた時は悩むものです、しかしその問題をどのように捉えるかによって人はさらに成長できます。さて今の経済状況を私達はこの様に捉え乗り越えてゆけるでしょうか。

またかきいたか